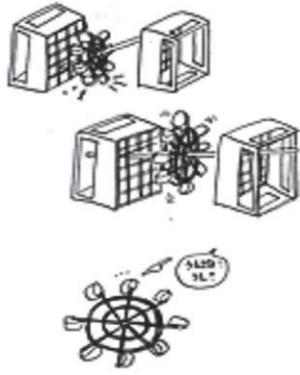


そうか!やってみよう

水道局やろう!

社会福祉法人わこう村 和光保育園 (千葉県富津市) [3歳児]

<事前の様子> ビールのカートン(ケース)を横にして水車の両脇に立て、底の格子状のマスに水車の横棒を差し込み、水の力で水車を回す遊びを、前日まで4・5歳児が楽しんでいた。その遊びを見ていて、自分たちもまねたくなり、登園してすぐに始める。遊び方がわかっているのか、迷わずに遊び始める。

	子どもの様子	援助(♡) 読み取り(※)
まねて遊ぶ中での学び	<ul style="list-style-type: none"> ・4歳児が作ったペットボトルの水車を借りて、3歳児A児・B児・C児の3人が「水道局やろう」と池に行く。 ・ホースで水車の羽に水をかけて、回そうとするが回らない。 ・羽根が床にひっかかっていることに気付いた3人は、近くにいた5歳D児と一緒に、棒の差し位置が低いと感じ、1つ上のマスに棒を差し替える。他の水車で5歳児がホースで水をかけ始めると、3歳A児もまねて水をかけ始める。 ・ホースで水をかけていたA児は、水のかけ方を変えると水車の回転の向きが変わることに気付き、いろいろ試す。 	<p>※まねして遊びたいという3歳児の思いがわかり、5歳D児が遊び方を伝えている。</p> <p>※5歳D児により、気付いたことが明確になって、遊びを進めている。</p> 
工夫して困難を解消して遊ぶ中での学び	<p><次の日> A児・B児は水車を出し、最初から水車が回るように、カートンの上の方の格子マスに棒をさして遊び始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいるうちに棒がはずれて斜めになってしまい、動かなくなる。 ・A児「こうやってやればだいじょうぶだよ」といい、A児とB児は床に着かないように水車の棒の位置を動かして、いろいろな方法を試してみる。 ・試すうちに、棒が斜めでも、床に付かなければ少しは動くことに気付くが、あきらめないで、鈍くなった動きを改善しようと試行錯誤する。棒が水平になった方がよく回ることに気付く。 ・棒を水平に設置するだけではなく、カートンを水車の羽車に寄せて、ぴったりくっつくようにした上で、さらに工夫する。しかし、水をかけるが動かない。 ・床ではなく、狭めたカートンにひっかかっていることに気付く。そこで2人はカートンの幅を広げて、羽車が当たらないよう確かめてから、遊びを再開する。「(今日は)B(自分の番)だよ」と言い、B児がホースで水をかける。 ・ホースで水をかけるB児の横で、「ここに当てるんだよ」とペットボトルの羽の外側を指差し、「上!上!」とA児が言う。B児は一番上のペットボトルに水を入れる。 	<p>♡「あれ、動かなくなっちゃったね」と言い、昨日、自分たちで工夫改善ができて遊べたので、保育者は今日もできるだけ手を出さず様子を見ることにする。</p> <p>※棒を水平にするだけでは、また外れてしまうと考えて、外れないように考えた。</p> <p>※昨日の遊びでわかった水をかける場所を、B児に伝えている。前日5歳D児のしてくれた伝授のかかわりが生かされて現れている。</p>  

ポイント

興味深い教材や水を自由に操作できる環境が共有できたことで、年齢の枠を超えて遊びが伝わり、3歳児が主題に迫る体験をしています。“まねる”だけでなく、5歳児と一緒に遊ぶことで「水のかけ方により水車の回る向きが変わる」学びをし、試行錯誤をしながら困難を解決する体験を通して「水車が回転する仕組みに気付く」学びをしています。体験から3歳児なりに感じ得た学びが、遊びの面白さにつながりました。